

第33期第8回小田原市図書館協議会 会議録

日 時：令和2年8月4日（火） 午後2時00分から3時45分まで

場 所：小田原市立中央図書館 2階 集会室

1 あいさつ

文化部・石川部長

2 報告事項

(1) 市議会6月定例会報告について【資料1】

○質問なし

(2) 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う市図書館の対応等について【資料2】

○事務局説明(省略)

○質疑応答

池田委員：大変な苦勞をされ、一生懸命対応されていたと感じる。ただ市民の側からすれば、この期間も本を読みたい、という要望がかなり強かったのではないか。いろいろな意見もあると思うが、図書館は慎重にやっているとされていると思う。

古矢館長：学校も休校となり、図書館ぐらいいは開けてほしいという要望を、休館期間中たくさんいただいた。特に緊急事態宣言下においては、図書館側としては、外出そのものを抑制してくださいという意図があったので、予約本の受取のみという形であっても外出の理由を作ることは好ましくないのではないかと、という考え方から、一時は予約本の受取も中止していた。全国の図書館の事例や、神奈川県立図書館をはじめとする県内の状況なども常に確認を取りながら、表現は良くないが、横並びの形で、本市だけがサービスを制限しているという形にならないように配慮した。図書館が3密にはならないなどの報道があると、翌日には「図書館はやっていないのか」と来館される利用者もいた。また、早めに情報を発信するよう努めていたが、日々、状況が変わっていく中で、情報の発信の仕方が大変難しく、利用者の皆様には大変ご不便をおかけした。また、先ほどもお話にあったように、館内の状態というのは、この期間に徹底的に館内チェック等を行うことによって、新たな問題が発見され、これは良かったと思っている。もう少し先に実施しようと考えていた館内点検等を行っていたというのが実情である。一時は返却された本をそのまま書架に戻さずに少し時間を置いたり、館内の清掃や消毒をするなど、様子を見ながら対応しており、これまで経験したことが無い中でどれが正解か分からないが、いろいろなご意見をいただきながら、これから先、どのような事態になっても、できる限り利用者の皆様に読書の楽しさを提供していきたいと考えている。

北河委員：今、フェイズ3とのことだが、利用時間はどのくらいなのか。

古矢館長：現在は1時間くらいの運用をしている。席数が少ないため、長時間にわたり特定の方が利用されると運用が難しいので、調べものをする方にしても、1時間くらいでお願いしている。強制ではなく、協力していただいている。

野口委員長：本当に手探りで、他の図書館の状況も見ながら、進めているということだが、今後の状況についても、見通しが立たないと思う。慎重に進めていただければと思う。

(3) 中央図書館の改修等について【資料3】

○事務局説明(省略)

○質疑応答

大塚副委員長：初めてESCO事業という言葉を知ったが、事業概要を知りたい。

一寸木副館長：省エネルギーに配慮した中央図書館の空調設備と照明設備等の改修事業を事業者へ委託するものである。設備改修に係る初期投資を事業者が負担し、市はESCOサービス料として事業費を10年分割で事業者へ支払うものである。空調設備等は事業者の所有となるため、維持管理は事業者が担うものである。市としては、初期投資や空調設備の維持管理の負担を軽減できるメリットがある。図書館はビルメンテナンスの事業者と契約しておらず、職員が空調や照明設備の維持管理を行っており、手間がかかっていた。

野口委員長：10年後に改修した設備はどのようなになるのか。

一寸木副館長：設備の所有権は市に移管されるものと考えている。改修した設備は10年で壊れることは考えにくいので、8年目に部品交換やメンテナンスを実施してもらい、市に譲渡されるという契約を進めている。

馬見塚委員：ESCO事業に伴って市民に不利益が及ぶことはないか。例えば、省エネ効果や事業費を削減するために冷房の温度設定が変えられないなど、そのようなことはないか。

一寸木副館長：近年、利用者の皆さんから夏季には暑いというご意見と館内の照明が暗いというご意見を多く寄せられており、ESCO事業を活用した設備改修を行うことにより、図書館の環境を改善し、利用者の皆さんに快適にご利用いただけるものと考えている。また、照明をLED化することにより経費の削減も図るものである。

馬見塚委員：今よりも快適な環境となって、しかも経費の削減も図れるということで理解した。

野口委員長：今年度はいろいろと工事が集中しているが、コロナ禍の状況で、利用が若干制限されている中で改修出来るということは、見方を変えれば良いタイミングだったのではないと言えるのかもしれない。多くの方が利用されている中で工事を行うのは難しかったと思われる。

(4) 利用者カード更新に伴うデザインについて【資料4】

○事務局説明(省略)

○質疑応答

石井委員：募集が小学生、中学生、高校生とのことだが、なぜ投票は小学生のみとなったのか、理由を伺いたい。小学生のみが投票するとなると、良し悪しは別として、どうしても小学生目線に偏りがちになるのではないかと感じたので質問した。

古矢館長：実務的な課題として、高校生まで投票を学校にお願いするというのは、正直難しいということもあるが、一方で、小田原駅東口図書館のコンセプトの一つに「次世代育成」というものがある。お子さんが読書離れだと言われている中で、子どもの頃から図書館に親しみを持ってほしい、小学生の時から、図書館を自分の庭だと思っ
てほしい、という強い気持ちがあった。子どもが好きそうなデザインを選ぶということではなく、比較的大人も受け入れやすいものを、という視点で予備審査を行っている。正直なところ、結果として、一番大人っぽいデザインに決まった、というのは意外であった。市職員、及び窓口委託職員も含めたかなりの人数でチェックし、一般的に好まれるものを選抜した。お子さんの意見を尊重するというより、むしろ参加したという経験を重視した。

石井委員：理解した。

野口委員長：コロナ禍の状況でなかったならば、イベントでシールを貼ってもらうなどのやり方も出来たかもしれない。今回は厳しい状況であったと思う。確かに、一番大人っぽい作品が小学生に人気だったというのは意外だった。もう1点、以前も本協議会の中で質問したと思うが、採用されたデザインの応募者は、表彰など行うのか。

服部係長：小田原駅東口図書館のオープンイベントで表彰および記念品を授与する。

野口委員長：最終選考に残ったほかのデザインの応募者も招待し、表彰してはどうか。

古矢館長：当日来館できるか分からないが、何か対応したいと考えている。

野口委員長：理解した。

北河委員：採用されたのは、高校生のデザインだったのか。

服部係長：高校生のデザインである。なお、最終選考に残ったデザインのうち、左から1番目が小学3年生、2番目が高校1年生、3番目が小学校3年生である。

石井委員：デザインに関して、どんな思いを込めたかなどの説明を、発表の際に載せることはできるのか。

服部係長：発表の際に、インタビューのような形で対応する。

池田委員：私はぱっと見たとき、波の形など、いろいろと想像してしまうので、こういう意図があってデザインしたなどあれば、大変工夫があってそれぞれメッセージが込められていると思うので、その辺りを公表される時にうまく発表されると、誤解がなくなると思う。

倉澤委員：小学校全校で小学生が投票できたことは、とてもありがたいことだと思っている。

小田原市の次世代を育てていくというところで、小学生の意識、小田原市の図書館のカードを自分たちで決めていくんだという意識を高めていくという点で、とても良かったと思う。小学生も1年から6年まで学年があるため、そういった中で総意として、この作品が良かったということで良いと思う。

野口委員長：小学生には、選ばれた作品について、どのタイミングでお知らせするのか。

服部係長：個々の学校には発表しづらいため、広報おだわらや市のホームページで発表する。

野口委員長：各学校でも、校長先生を通してご紹介いただけると子ども達も喜ぶのではないか。

以下非公開